

『明るい社会をつくるために』

小城市立小中一貫校芦刈観瀾校 8年 古川 陽菜美

私は中学一年生のときに、テストでいい成績を取ることができたご褒美として両親からスマホを買ってもらいました。ずっと前から欲しいと思っていたスマホ、初めての定期テストで人一倍勉強をし、両親を説得してやっと手に入れることができたスマホは当時の私の宝物になりました。「ネットは怖いからね。自分の写真や誰かを傷つけるようなことを送ったら駄目だよ。」母にそう繰り返し忠告されたのをよく覚えています。学校でも同じようなことを何度も教えられてきたので、自分でもその危険性や注意しなければいけないことについてはよく理解をしていました。

実際に使ってみると、SNSには私が思っていた以上に誹謗中傷、特定の誰かを傷つけるような書き込み、そういったものが溢れていました。友達がLINEで別の友達の悪口を言っている、名前を出さずにみんなが見れる場所で誰かの愚痴を書いている、そういった場面を何度も見ました。普段の学校でのストレスを相手の顔が見えないSNSで吐き出す、SNSが相手を傷つける手段の一つになっていると感じました。相手に直接自分の思いや考えを伝えるのと、表情や声が見れない文面だけのSNSの世界で伝えるのでは、後者の方が簡単で罪悪感が少ないことはよくわかります。しかし、両者とも相手を受ける心の傷やその後の人間関係への影響には大して差がないように感じられます。名前が出されていない誰かへの愚痴を見たとき、もしかしたら自分のことかもしれないと強い不安に駆られ、明日の登校が怖くなったことが何度もありました。不特定多数の人が見ることができるSNSの世界では、発信者にその意図がなくても、知らない場所で傷ついている人が少なからずいるのです。

相手の顔が見えないSNSでは「相手の気持ちを考える」ということが普段の生活より、少し難しいのかもしれませんが。ですが、顔が見えないからこそ相手や見る人の気持ちを考えること、それを踏まえた発信の仕方をするはこのネット社会でとても大切なことだと思います。「相手の気持ちを考えて行動する」小さい頃から何度も教えられてきたので口で言うのは簡単ですが、実際に意識して生活できている人は少ないのではないのでしょうか。以前、友達から苦手な人に対しての接し方について相談を受けたとき、「無視すれば？」と言った事があります。それに友達は「無視すれば、自分が苦しくなる。無視はしたくない。」と答えてくれました。そのとき私は「無視すれば？」なんて簡単に言ってしまった自分のことがすごく恥ずかしくなりました。友達が自分が苦しくなると言ったのは、無視は悪いことだと自覚をしているからだろうし、無視された相手の気持ちを考えることができる人間性を持っているからだと思います。SNSを利用するときも同じように顔が見えなくても相手や見る人の気持ちを考えることができれば、ネットいじめや誹謗中傷などの問題も自然と減っていくのではないのでしょうか。

ですが、相手や見る人の気持ちを考えることができなくなっている加害者側の心の背景をなくすことが、SNS上での犯罪をなくすためには必要不可欠だと思います。加害者側の人達には普段の生活で怒りや孤独感を感じていたり、自己を表現する場が少なかったり、ストレスを受ける機会が多いのかもしれませんが。その吐け口が現実世界に少ないことによって、SNS上の顔の見えない他人に矛先が向いてしまうのではないのでしょうか。ですがそれでは加害者側の人達が受けているストレスの根本的な解決にはなっていないし、それが例えSNS上でも他人を傷つけていい理由にはならないと思います。現実世界でお

互いに頼ったり、助け合えたりできるような関係を持つことが、自分自身の心の余裕には大切だと考えます。そのためには、より現実世界で人とのコミュニケーションの機会を増やし、お互いに良い関係づくりができる場が今以上に必要なのではないでしょうか。スマホがあれば大抵のことができるようになった今、そういう場が少ないように感じられます。便利な世の中だからこそ、人と人とのつながりを強め相手も自分自身も大切にできる強い心を持つことが犯罪行為の減少に、明るい社会をつくっていくために、一番大切なことだと思います。

まずは自分から、という意識を一人一人がもつことで周囲の人達や環境はどんどんいい方向に変わっていくのではないのでしょうか。私も今ある人とのつながりに感謝を忘れず、相手と自分、どちらのことも大切にできる強い人間になりたいです。